



市場区分の見直しに関する
フォローアップ会議 第十回
東証説明資料①

資本コストや株価を意識した経営の
実現に向けた対応等に関する周知状況

Exchange & beyond

株式会社東京証券取引所 上場部

2023年4月25日

- 3月31日に公表した「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応等に関するお願い」について、上場会社、国内外の投資者をはじめとする市場関係者に、要請の趣旨・具体的な内容を丁寧にお伝えする観点から、周知活動を実施（上場会社や国内外投資家向けセミナーでの講演、国内外投資家との個別面談、記者向けレクチャー、メディア取材対応、雑誌への寄稿など）
- 公表後、海外投資家を含む投資者から、今般の要請を踏まえた上場会社の変化に期待する声が多く寄せられている一方で、形式的な開示や一過性の対応で終わらないよう、継続的なフォローアップを求める声も寄せられている

これまでに多く寄せられた意見・質問（「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」に関して）

- 今後の上場会社の対応状況に関するフォローアップの必要性
- 本要請を受けた自社株買いや増配などについての考え方
- PBR（1倍）についての考え方
- 業種による傾向についての考え方（PBR・ROE等）
- グロース市場における対応やその他の課題

⇒ 今般の要請を踏まえた上場会社の対応状況について、東証において継続的に把握しつつ、本会議においても継続的にフォローアップを実施

- ✓ まずは、3月期決算会社の定時株主総会後に提出されるコーポレート・ガバナンス報告書の内容も踏まえ、今秋を目途に報告・議論を行うことを想定しているが、フォローアップの観点や方法等について、ご意見をいただきたい

(※) 「株主との対話の推進と開示」及び「建設的な対話に資する「エクस्पライン」のポイント・事例」についても、フォローアップを実施

今後の上場会社の対応状況に関するフォローアップの必要性

- 今回の要請については非常に良い取組みと評価しているが、形式的な開示で終わらないよう、今後、企業に実際的な取組みを促していくことが重要（海外投資家など）
- 今後、要請を超えて、上場規則等で規定していくことは想定されるか（海外投資家など）
- 要請を形骸化させないためには、投資家のエンゲージメントが鍵であり、対話に積極的な企業を増やしていくことも重要（証券会社）

本要請を受けた自社株買いや増配などについての考え方

- 上場会社からは、今後の対応に関する相談が多く寄せられている状況だが、自社株買いなど「一過性の対応」に走りがちな面もあるため、要請の趣旨を十分に周知することが必要（証券会社）
- 資本コストを超える投資機会が存在する企業においては投資が優先されるべきだが、機会がない企業においては、成長投資より株主還元を優先することが最適な打ち手であるケースもあり、そうした考え方をクリアにすることが重要（国内投資家）

P B R（1倍）についての考え方

- なぜP B R 1倍に注目したのか、1倍を超えればよいという話ではないという理解（海外投資家）
- 企業が近視眼的に、P B R 1倍割れを形式的にクリアさえすればよいと捉えてしまうことを危惧。P B R 1倍割れは1つの指標でしかなく、投資家が期待しているのはサステナブルなビジネスプランを練り直すこと（海外投資家）

業種による傾向についての考え方（P B R・R O E等）

- P B R・R O Eに関して、業種による傾向をどのように考慮して対応すればよいか（上場会社）

グロース市場における対応やその他の課題

- 今回の要請はプライム市場とスタンダード市場に向けたものだが、グロース市場については、今後どのような方向性で対応を進めていくのか（国内投資家）